

震災で追われた人びと。  
それぞれに違った涙の色がある――

# 福島は語る

『沈黙を破る』『異国に生きる』『飯館村』

土井敏邦 監督作品

いまを生きるすべての人たちへ  
分断された私たちが綴り続ける14のメッセージ

[www.doi-toshikuni.net](http://www.doi-toshikuni.net)

監督・撮影・編集：土井敏邦 監音：藤口諒太 朗読・題字：高橋長英 写真：森住卓 挿入歌：「ああ福島」(李政英) 配給：きろくびと・ピカフィルム 2018年 / 日本 / カラー / 170分



東日本大震災から8年になる。  
2020年の東京オリンピックを前に日本中が浮き足立つなか、フクシマは「終わったこと」として忘れ去られようとしている。

しかし、原発事故による放射能汚染で故郷や住処を追われ、生業を失い、家族離散を強いられ、将来への希望を奪われた十数万人の被災者たちの傷は癒えることなく、痛み、疼き続けている。

その被災者たちが心臓に鬱積した深い思いを吐露した。1000人を超える証言者の中から選び抜いた14の「福島の声」を、いま日本に住むすべての人に届ける。

- 第一章 「避難」 (25分)
- 第二章 「仮設住宅」 (16分)
- 第三章 「悲憤」 (15分)
- 第四章 「農業」 (29分)
- 第五章 「学校」 (14分)
- 第六章 「抵抗」 (15分)
- 第七章 「喪失」 (41分)
- 最終章 「故郷」 (15分)

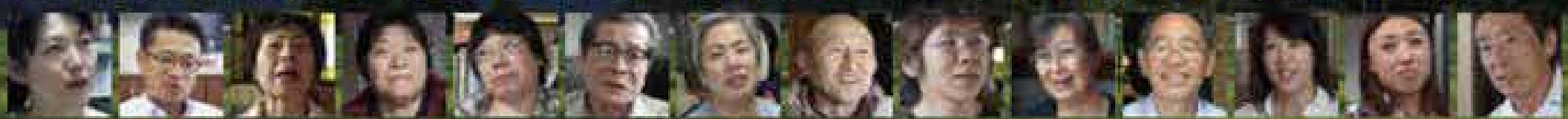
子どもの頃に  
人を憎んだり  
恨んだりしては いけないと  
母から教わりました

それなのに  
こんなに辛いのは 何故ですか  
こんなに悔しいのは  
どうしたのでしょうか

この先 ホクは何を探して  
生きていけばいいのでしょうか  
「仮設にてー福島はもはや「フクシマ」になった」  
藤島 昌治 (著)・「東京電力株主総会」より抜粋



# 2時間50分の14人の証言が映し出す



**杉下初男**  
1949年生れ。「帰還困難地域」の飯館村長泥地区の農家。脱サラして始めた石材加工の事業が軌道に乗る。家も新築。しかし間もなく、原発事故で故郷を追われ、家も生業も失い、さらに追い打ちをかける出来事が起こる。

**岡部理恵子**  
1988年生まれ。原発事故当時2歳と生後1ヶ月の子の母親。半年後に子供とともに郡山市から新潟県に自主避難。郡山市に残って働く夫は、ほぼ毎週、新潟へ通い続けるが、避難が長引くにつれ夫婦間の溝が広がっていく。

**小野田陽子**  
1969年生まれ。原発事故当時、双葉町の小学校5年生の担任。事故直後から、各地に避難した子どもたちの近況を伝える手書きの「学年便り」を送り続けた。避難した子どもたちの心情を語る。

**藤島昌治**  
1946年生まれ。南相馬市小高町出身。原発事故後、南相馬市の仮設住宅に入居し、4年間、自治会長を務めた。その間、強り暮らしの心情や「仮設暮らし」から見えるてくる社会の歪みを詩に綴り、詩集を出版。

武藤類子  
大河原多津子

中村和夫  
松本徳子

村田弘  
地脇美和

佐久間いく子  
渡辺洋子

小野田敏之  
星ひかり

# いまなお続く“深い思い”

監督・撮影・編集：土井敏邦 監音：関口諒太 原稿・脚字：高橋長英 写真：森住卓 挿入歌：「あゝ福島」(李政英) 宣伝美術：野田雅也 ウェブサイト：安藤滋夫 配給：きろくびと・ピカフィルム 2018年/日本/カラー/170分

**2020年1月11日**  
**13:00 ~ 16:30**  
**上映会決定!**

13:00 ~ 14:30 第一章~第四章	14:30 ~ 15:00 午後2時46分の黙想(お祈り)	15:00 ~ 16:30 第五章~最終章
--------------------------	----------------------------------	--------------------------

日本聖公会東北教区主教座聖堂  
**仙台基督教会**  
主催：日本聖公会東北教区東日本大震災被災者支援プロジェクト



入場無料 (被災者支援活動のための募金箱あり)